

神戸市外国語大学魅力発信事業

公開講演会

神戸発

いまだから・・・!

言葉でつむぎ、 ストーリー つなぐ7つの物語

オンライン
実施

For Free

- 1 下村優太郎氏 (NHK TVディレクター)
8月29日(土曜) 14:30~16:00
- 2 松田道子氏 (公益財団法人神戸 YMCA 国際・奉仕センター・ランゲージセンター所長)
9月24日(木曜) 16:05~17:35
- 3 木村大輔氏 (Beyond Coffee Roasters オーナー)
10月27日(火曜) 14:25~15:55
- 4 福田明子氏 (株式会社フェリシモプランナー)
11月17日(火曜) 14:25~15:55
- 5 大竹英洋氏 (自然写真家)
12月17日(木曜) 16:05~17:35
- 6 岡野圭佑氏 (有機 JAS 認定農家)
2021年1月23日(土曜) 14:30~16:00
- 7 松田素子氏 (編集者、作家)
2021年2月6日(土曜) 14:30~16:00

2020年、 新しい学びと暮らしを共に考える

新型コロナウイルス感染拡大により、学びの場としての大学のありかただけでなく、わたしたちの生き方や働き方にも変化が迫られています。2020年度の神戸市外国語大学魅力発信事業では、神戸で活躍する7名の方々による初めてのオンライン講演会をシリーズで企画しました。国際感覚と広い視野を備えた講師の方々のライフ・ストーリーを大学キャンパスから発信します。この困難な時代における新しい学びと暮らしを共に考えます。

「行動する国際人」の育成を教育理念とする神戸市外国語大学は、2020年、国際都市神戸が歴史の中で育んできた芸術文化や経済の力を再発見し、そこから世界につながる新たな価値観の創造をめざします。



◀ お申込みはこちら

www.kobe-cufs.ac.jp/news/2020/20715.html

主催：神戸市外国語大学 協賛：神戸市
問い合わせ：神戸市外国語大学 英米学科 教授 難波江 仁美
hitomi@inst.kobe-cufs.ac.jp

下村優太郎氏

わたしはなぜTVディレクターになつたのか

8月29日(土曜) 14:30-16:00



高校時代に世界一周の船に乗り、ヒパクシャの方々が各国で証言する活動をサポート。そこから“伝える”ことに関心を持つ。大学卒業後、NHKに入社し、神戸に赴任。若手ディレクターとして、夕方のニュース番組「Live Love ひょうご」のリポート制作を中心に、番組も多数制作。パリバラ「新しいカゾクの形?神戸・はっぴーの家」や、あさイチ「日本の中のシリア」、目撃! につぼん「星に願いを〜小さな山の天文台物語〜」など。現在は、新温泉町の禅寺・安泰寺を取材。山奥で外国人の雲水たちが送る自給自足の修行生活を、隔月で放送している。

松田道子氏

なぜわたしは難民支援にかかわるようになったのか

9月24日(木曜) 16:05-17:35



公益財団法人神戸YMCA常勤理事(教育国際部門担当)、神戸YMCA学院専門学校校長、神戸YMCA高等学院校長、国際奉仕センター・ランゲージセンター所長、短期大学卒業後、自営業に従事しながら日本語教師の道へ進む。神戸YWCA学院専門学校日本語学科に勤務しながら神戸市外国語大学第2部英米学科を2000年に卒業。卒業後は、タイ国チェンマイYMCAランゲージセンターで日本語教育に関わりながら、YMCA地域支援活動に参加し社会課題を学ぶ(2003年帰国)。パレスチナでの支援活動、チェンマイでの経験を通し、今難民支援に力を注いでいる。

木村大輔氏

できることで生き延びる、開業までのプロセスとその後

10月27日(火曜) 14:25-15:55



Beyond Coffee Roasters オーナー。神戸市外国語大学卒業後、コーヒー会社に就職するが早々に退職し渡米。2週間西海岸を巡る旅の途中で開業を決意、資金調達目的で大手メーカーに短期就職。1年半の間で12カ国を出張しながら、各地のコーヒーカルチャーを調査。その後、兵庫区にオープンするゲストハウス立ち上げに参画、2014年より現中央区中山手通の場所で創業。高品質な原料とされるコーヒー生豆の焙煎加工・販売を主な業務とし、国内・海外の取引先と共同開発するコラボ商品の開発・販売にも注力する。

福田明子氏

なぜわたしは神戸のフェリシモでプランニングをし続けるのか?

11月17日(火曜) 14:25-15:55



株式会社フェリシモ 第三企画室所属プランナー。東京都出身。学生時代のアルバイト先でそのまま働く気だったが、たまたま学校近くで説明会をしていたフェリシモの採用試験に応募したところ合格、単身、神戸へ。女性インナー開発部門に配属、ブランドを立ち上げて、商品企画としてがむしゃらに働いていたところ、社長直属の「新しいかたちの企画」を目指す部門へ異動。レッスン型商品の原型をつくる(現在は「ミニツク」として発展)。以来、「新しいかたちの企画」を自らに課す。育児休暇後には、感受性と創造性豊かな子どもと大人を神戸に増やすことを目指す「こどもフェリシモ」を開始したほか、現在は、新たなコラボプロジェクトの立ち上げを準備中。

大竹英洋氏

今も旅は続く:

北米ノースウッズにオオカミを求めて

12月17日(木曜) 16:05-17:35



自然写真家。北米の湖水地方「ノースウッズ」をフィールドとする。米国の著名な写真家 Jim Brandenburg に弟子入りしようと北アメリカを訪れた体験を綴った『そして、ぼくは旅に出た。』(あすなる書房2017年)は第7回梅棹忠夫・山と探検文学賞受賞。写真絵本に『ノースウッズの森で』、『春をさがして:カヌーの旅』(以上「たくさんのふしぎ傑作集」福音館書店)、写真集に『ノースウッズ:生命を与える大地』(クレヴィス)がある。2018年、日経ナショナル・ジオグラフィック写真賞、ネイチャー部門最優秀賞受賞。

岡野圭佑氏

私が学んだ、いざとなつての大切なこと

2021年1月23日(土曜) 14:30-16:00



有機JAS認定農家 チョちゃんの野菜生産者。商社マンとして石油買付にアフリカ・中近東を駆けめぐると、一転してオーガニック・ファーマーとなる。地産の種を再生、和野菜をはじめイタリア野菜等を栽培。神戸北野町で週一回野菜を販売している。

松田素子氏

なぜわたしは編集者になつたのか

2021年2月6日(土曜) 14:30-16:00



編集者、作家。児童図書出版の偕成社に入社。雑誌「月刊MOE」の創刊メンバーとなり、同誌の編集長を務めた後1989年に退社。その後はフリーランスとして絵本を中心に活動。担当した作品は300冊以上。各地でのワークショップを通して、新人作家の育成にもつとめており、長谷川義史、はたこうしろう、ひがしちからなど、多くの絵本作家の誕生にも編集者としてたちあい、詩人まど・みちおの画集なども手がける。自然やサイエンスの分野においても、企画編集、執筆者として活動している。『ながいながい骨の旅』は第二回日本子どもの本研究会作品賞、絵本学会2018年「BOOK END」が選ぶ「次世代に残したい絵本」、2019年度児童福祉文化賞を受賞。高い評価をうけるミキハウスの「宮沢賢治の絵本」シリーズの編集を手がけ、その朗読会を「見ル聞ク賢治」と題し、神戸元町で定期的に開催している。

動画配信、カメラ撮影: SCIRE HAYATO YAMADA



神戸市外国語大学魅力発信事業

本学は、現代社会の要請に応じた高度な外国語運用能力を備え、国際的な知識と柔軟な判断力を持った、ビジネス、外交、教育など様々な分野で活躍できる人材の養成や、市民向けのセミナー、ボランティアなどの地域貢献や国際交流活動、小中高における外国語教育や国際理解教育へのサポートなど、公立大学法人として幅広い活動を展開しています。こうした学生、教員が行う様々な有意義な活動について、さらなる発展・拡充を図り、広く社会に魅力を発信するため本学が支援を行っている事業です。

主催: 神戸市外国語大学 協賛: 神戸市
問い合わせ: 神戸市外国語大学 英米学科 教授 難波江 仁美
hitomi@inst.kobe-cufs.ac.jp